■　限界を決めない　■

素質は誰もが認める。しかし、二刀流には多くの人が懐疑的だった。日本のプロ野球ですら、早く一流になるためには投手か打者で専念すべきだとの声が強かった。ましてや大リーグとなれば、成功を確信できた人は皆無に近いだろう。

しかも、開幕前は不振だった。５試合で防御率 27.00、打率は１割２分５厘で全く冴えない。「当分はマイナーリーグで過ごした方がいい」「まだ高校生レベルの打者だ」とメディアも酷評していた。

その大リーガー大谷翔平がなんともすごい。打者として３試合連続の本塁打、投手として２戦２勝。１シーズンで３試合連続のホームランと２桁奪三振はベーブ・ルースに続き、メジャー３人目の快挙だという。シーズンはまだ始まったばかりだから、期待で盛り上がるのも当然だ。

いままで誰もできなかったことへの挑戦には、誰もが疑問符をつける。しかし、できないと決めつけていたのは、それまでの固定観念であって、やってみたらできることも少なくないのかもしれない。だって、日本人大リーガーの扉を開いた野茂英雄も、現在も活躍を続けている初野手のイチローも、当初は多くが通用しないと考えていた。

新しいことに挑戦するとき、「やってみてできなかったらどうしよう」「どうせ自分には無理」といった思いに駆られる。でも、勇気を出してやってみることの方が人の営みとして尊いのではないか。明倫生も自分で限界を決めることなく何事にも挑んでほしい。

そんなことを考えながら、ＴＶを見ていたら、欅坂４６が新曲『ガラスを割れ！』を歌っていた。歌詞が耳に止まる。♪想像のガラスを割れ！／思い込んでいるだけ／やる前からあきらめるなよ♪　なんだ、若い人たちだって、分かっているじゃないか。同じ思いを持っているじゃないか。なんとも頼もしいじゃないか。